

# 令和4年度 入学者選抜試験問題

## 国 語

実施日時：令和4年1月20日（木） 9：00～9：50

\*下記の〈注意事項〉をよく読み、監督者の指示を待ちなさい。

### 〈注意事項〉

#### — 開始前 —

1. 監督者の〈開始〉の指示があるまで、この問題冊子の中を開けない。
2. 解答用紙には、解答欄のほかに下記2つの記入欄がある。その説明と解答用紙の「注意事項」を読み、2項目の全てに記入またはマークする。
  - ・ 受験番号欄 上段に受験番号を記入し、下欄にマークする。
  - ・ 氏名欄 氏名・フリガナを記入する。
3. 解答用紙に汚れがある場合には、挙手で監督者に知らせる。
4. この表紙の受験番号欄に受験番号を記入する。

#### — 開始後 —

1. 問題は2ページから20ページまでの各ページに印刷されており、第1問～第2問の2題で構成されている。  
開始後確認してページの落丁、乱丁、印刷不鮮明等がある場合は、挙手で監督者に知らせる。
2. 解答は全て解答用紙の所定の欄へのマークによって行う。たとえば、

1
---

と表示のある問いに対して2と解答する場合は、次の〈例〉のように解答番号1の解答欄②をマークする。

〈例〉

1	解 答 欄									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
1	①	●	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

3. マークする際はHBの鉛筆でマーク欄を適切にマークすること。
4. 質問等がある場合は、挙手で監督者に知らせる。
5. 試験開始後の途中退室はできない。

受験番号

--	--	--	--	--	--

(問題は次のページから始まる)

第1問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(配点50点)

\*ヒトラーを悩ませたパーキンソン病は手足の震え、ちよこちよことした小刻みな歩行、そしてカラダを動かそうにも思うように動こうとしない筋肉のこわばりをおもな症状とする。脳内でドーパミンという神経伝達物質が特定の回路で欠乏するため、骨格筋を動かすための神経ネットワークが不調となってカラダが足踏みしてしまう。その具合の悪い神経回路で、信号を頻発させる\*視床下核に電気で刺激してやると症状をおさえることができる(患者の視床下部に電極を留置しておこなう)。

こうやって動きがスムーズになった患者に「いま、電極の設定を変えて、カラダを動かさなくしましたよ」と医師が告げる。するとそれまで電気刺激が効いていた患者は元のように動作がのろのろと緩慢になってしまう。患者は感激して、「この電気刺激装置は実によく効くもんだ」と感心する。

こんどは「いま思うように動かないカラダをよく動かせるように設定しました!」とやはり医師が患者につたえる。これを聞いた患者は途端に動きがすると正常になる。

ここで患者には内緒に読者だけに種明かしをする。実は二つの設定とも電極にはなんの操作も加えていない! あれ(ア)フシギ。患者に作用した言葉の力、それを暗示と呼ぶならば、その魔術——暗示というコトバ——が化学的・電氣的信号をあやつったことになる。

もうひとつ、解せないできごとがある。患者にアポモルヒネという薬を注射すると視床下核の余計な活動を正常レベルにもどすことができ、筋肉のこわばりと震えも治まる。数日間、アポモルヒネを患者に投与し、その後、患者に分らないように、注射液を生理食塩水に変える。すると、症状はそのまま治まったまま視床下核の活動も沈静化しつづける。これらをどうやって説明するか。ウーンと唸るしかない。(a)手がかりがひとつある。

あなたの脳内にはあなた自身のカラダの構造と機能に関する最新のAマップができあがっている。手足がどんな形でカラダのどこに、空間のどんな位置にどのような位置にあるのか、どこその関節はどのくらい曲げることができるのか、どの筋肉はどのくらい収縮できてどのくらいの力を入れることができるのか、そして自分が自由に動かせる空間の広がりほどの範囲であるのか、それらがマップ上に記載されている。《1》

このマップに基づいて運動が展開され、その結果が(イ)ソクザにフィードバックされ瞬時にマップが上書きされていく。カタツムリみたいにそ

ろりそろりとした動き、はじめの一步がすくんでしまうパーキンソン病患者の\*島皮質には緩慢な動作しかできない固有知覚マップがすでにできあがっている。その地図がある限り、そのとおりの運動しかできない。このマップの内容を「あなたの足はスムーズに動きます。手の震えもなくコップをもつことができます」と書きかえることができるなら、それを参照する筋骨格系は病気を発症する前の元気な動きとなる。《2》

でもちよつとやそこらの「刺激」ではこのマップを修正することはできない。電極埋め込み手術——ドリルで頭蓋骨に小さな穴を開け、長くて薄い、鉛筆の芯のような電極を三次元画像と神経線維の電気活動で(ウ)ユウドウしながら脳の深部(視床下核)へ挿入する——を、脳出血や梗塞そくのリスクをとめないながらも受けるといふ思いと覚悟、そして実際に手術を受けているときに生まれる情動——(甲)——が身体マップをガラリと変える。それによって骨格筋を支配する神経線維の電気インパルスが変化する。最近の生理学研究が明らかにした身体図式および身体イメージの概念が、(b) 脳卒中後の手足の麻痺まひのリハビリに応用されている。

こんどは免疫細胞が魔法にかかる話をしよう。T細胞やマクロファージといった白血球がパブロフのイヌのように条件づけによってだまされるところという話だ(ベルの音のあとに餌をあたえられるイヌは、ベルを聴くだけで(エ)ダエキを出すようになる)。読者はツベルクリン反応について知っているはずだ。ツベルクリン液(結核菌が分泌する蛋白質たんぱくしつを精製したもの)を前腕の皮下に注射し、四八時間後に皮膚が赤く盛り上がるかどうかをみる検査のことだ。もし結核菌に感染していれば、すでに結核菌と出くわしたT細胞が抗原、つまりツベルクリン液中の蛋白質と結合し、皮膚にアレルギーをおこすサイトカインを放出する。また別の白血球のマクロファージが集まってきて皮膚が赤く盛り上がる(盛り上がり)が二〇ミリメートル以上で陽性と判定する)。

アーカンソー大学のG・スミスらが一九八三年におこなった実験では、先ず被検者に左右それぞれの前腕に月一回、ツベルクリンを注射することを説明する。はじめの五回は右側の腕に赤いアンブルに入ったツベルクリンを、左側の腕には生理食塩水が入った緑のアンブルを注射する。当然、いつも右側だけが二〇ミリメートル以上に腫れて陽性反応を示す(被検者は結核菌にすでに感染した者ばかりだった)。これによって被検者の脳には赤いツベルクリン液赤く腫れる、緑い非ツベルクリン液腫れないとのメッセージが刷り込まれる。六回目のとき、右側の腕には赤いアンブルなのに生理食塩水が入った液を、左側には緑のアンブルに入ったツベルクリンを注射した。このとき被検者はもちろん、看護師にも内緒で注射液をすりかえておく。(c)、結果はどうなったか。①これまで毎回、腫れていた右側の腕にはなんら皮膚反応はおきなかった。そして、②二〇ミリメートルをこえる盛り上がりが出て当然の、左側の前腕にはたった五ミリメートルの膨らみ、つまりツベルクリン反応は

陰性のままだった！ ツベルクリン液に反応すべきところが反応しなかったのである。

つぎの話も免疫系が条件づけられるというマジックだ。甘味料のサッカリンは砂糖の三五〇倍の甘みがある。ザラザラした甘くて美味しいサッカリンを舐めたマウスは一瞬、幸福感に満ちあふれる。このサッカリンが「ベル」役となり、「餌」として嘔気を催すサイクロフォスファミドを与える。これをくり返すことでマウスは条件づけを学習し、サッカリンだけで嘔気をおこし、食べるのを嫌うようになる。《3》

マックマスター大学のR・エイダーらは一九八一年に、右記の条件づけされたマウス、すなわちサッカリンを舐めただけで嘔気を催すマウスがあらゆる感染症にかかり重篤になることを明らかにした。サイクロフォスファミドはもともと免疫抑制剤で、その副作用が嘔気なのである。サッカリンを舐めると血液中にはサッカリンの主成分である2-スルホ安息香酸イミドが流れ、視床下部の血液センサーの知るところとなる。でも甘さに酔いしれるのもつかの間。サイクロフォスファミドによって経験したことのない嘔気がおきる。マウスの脳には血中の2-スルホ安息香酸イミド値の上昇を抑えるには嘔気行動をおこすのが一番というマップができあがる。同時にマウスは知らずのうちにサイクロフォスファミドによって免疫細胞の機能低下を招くが、無意識下にその情報も感知されているため、マップにこのことも追記される。サイクロフォスファミドは骨髄細胞のDNA複製を阻害するので、白血球数を減少させ感染症にかかりやすくさせる。かくしてサッカリンは白血球をつくるための遺伝子を動かしたことになる。ストレスが免疫系を抑制するのは遺伝子に作用するためであることが明らかとなってきた。

ストレスが体調という噴水を揺るがせるなら、水しぶきをコントロールする蛇口役の遺伝子も影響を受けているにちがいない。その例を二つあげてみる。ひとつは、カラダをストレスに耐えるようにする蛋白質の話、もうひとつは、ストレスが免疫反応を遺伝子レベルでコントロールする話である。

シロイヌナズナはなんの変哲もない雑草だが、線虫とならんでゲノム研究の花形だ。高等植物のなかで最初に全ゲノムが解読されるという名誉に浴した。「人がひと晩で白髪になる」とは人がストレスでやつれることを言い得て妙だが、これは根も葉もないこと。しかしシロイヌナズナはストレスが加わると葉っぱの形や色を変える。それまで眠っていた遺伝子が呼びおこされ、形態を変えてしまうのだ。

ヒトも急にストレスに直面するとシロイヌナズナの体内でおきた変化とおなじ機構がはたらき、カラダはストレスを回避し適応するための蛋白質群、いわゆるストレス蛋白質をつくる（そのためには、外から加えられたストレスが信号となって細胞膜をとって核のなかにとどき、蛋白質をつくるための設計図をDNA配列から引っ張り出す必要がある）。ストレス蛋白質のひとつに、熱により発現する遺伝子群がコードする

蛋白質がある（熱ショック蛋白という）。

この蛋白質がいざというときに細胞内でつくられるおかげで、多くの生物（ $80^{\circ}\text{C}$ の温泉に棲む好熱菌、氷点下に棲む魚類、陸上で生活する植物や哺乳類）は居心地のよい生理的温度から $5\sim 10^{\circ}\text{C}$ 高い温度にさらされても平気でいられる。熱ショック蛋白は熱ストレスだけでなく、ほかのストレス——ケガや感染症、物理化学的な（オ）バクロ（低酸素、紫外線、放射線）、精神的いじめや不安など——に反応してつくられ、ストレスから生物を守っている。そのほか、熱ショック蛋白は発生に不可欠な蛋白質を安定化させるシャペロン機能——ストレスによって変性した細胞内の蛋白質を正しい立体構造をとるよう巻きもどす——をもっており、遺伝的な（乙）をゆるやかにしている。熱ショック蛋白の生成は、生物がもともと持っている、生きようとする習性を支えるカラダの反応のひとつなのである。〈4〉

つぎは、ここが遺伝子に作用する話である。一九九〇年、オハイオ州立大学のR・グレイザーらはストレスによる免疫抑制のメカニズムを遺伝子レベルではじめて明らかにした。医学部の学生が一週間ぶつとおしの試験を受けると、その後にはかかるとはならない感染症になったりする。研究によると、試験漬けによってリンパ球が分泌する警戒警報分子IL-2——侵入してきた微生物を退治するひとつの武器——の受け手となる受容体の遺伝子発現量が低下した。その結果、学生たちの体内でIL-2そのものの産生が抑制される、とグレイザーらは考察している。試験は X もの。その準備には集中力もいるし、机に張りつき詰めで精神的にも肉体的にも疲労もするのだ。

もうひとつ、べつの例をあげる。人がストレス漬けになると端から見ても「やつれたなあ」と感じることもある。強い精神的ストレスが遺伝子を傷つけ、カラダを老化させるのだ！ 老化と遺伝子といえば前に説明した\*テロメアだ。E・エペルらはこのテロメアに注目した。二〇〇四年、彼らの報告では精神的に強いストレス下にある二〇〜五〇歳の母親たち五八名——三九人は脳性麻痺や自閉症の子どもをもつ——のDNAは損傷されテロメアがかなり短く、またテロメアを修復する酵素のテロメララーゼ活性も落ちていた。ストレスの少ない同年代の母親にくらべて、なんと九〜一七年も老化が進んでいた。〈5〉

日本人好みの古来の教えと美徳である、強い意志をもってすれば「山をも動かす」はいまとなつては強いキモチが標的細胞の「遺伝子を動かす」のである。B 噴水の蛇口をいじっているのはあなたのキモチなのだ。

（三村芳和『カラダの知恵』より）

〈注〉 ヒトラー……ナチスドイツの指導者（一八八九～一九四五年）。

視床下核……大脳の部位名。

島皮質……大脳皮質の一領域。

テロメア……染色体DNAの両端の呼称。細胞が分裂するたびにテロメアは少しずつ短くなり、これに伴って細胞分裂の回数が減り、やがて分裂しなくなる。これが細胞の老化である。

問一 傍線部(ア)～(オ)のカタカナの部分に漢字に直す場合、最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は(ア) 、(イ) 、(ウ) 、(エ) 、(オ)

(配点 各2点)

(ア)	フシギ	①	義	②	儀	③	議	④	戯	⑤	技
(イ)	ソクザ	①	則	②	促	③	束	④	即	⑤	速
(ウ)	ユウドウ	①	誘	②	融	③	湧	④	裕	⑤	優
(エ)	ダエキ	①	蛇	②	随	③	惰	④	馱	⑤	唾
(オ)	バクロ	①	路	②	露	③	呂	④	炉	⑤	賂

問二 本文中の( a )～( c )に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。ただし、同じものを二度以上用いてはならない。解答番号は( a ) 、( b ) 、( c )

(配点 各2点)

- ① あるいは
- ② さて
- ③ たとえば
- ④ でも
- ⑤ ところで



問三 空欄（甲）、（乙）に入るものとして最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は（甲）

（乙） 10

9

（配点 各4点）

（甲）

- ① 臨場感、恐怖
- ② 安心感、野望
- ③ 期待感、希望
- ④ 無力感、成功
- ⑤ 全能感、再生

（乙）

- ① 形質劣化
- ② 立体構造
- ③ 突然変異
- ④ 衝撃吸収
- ⑤ 形態変化

問四

空欄 X

に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は

11

（配点 4点）

- ① 非常に難しい
- ② だれしも嫌がる
- ③ 努力を要する
- ④ 三日が限度である
- ⑤ 能力を測れない

問五 次の一文は、本文中の《1》～《5》のどこに入れるのが最も適当か。次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は

12

(配点 5点)

これだけではとくに耳目を引くことはない。

- ① 《1》 ② 《2》 ③ 《3》 ④ 《4》 ⑤ 《5》

問六 傍線部A「マップ」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は

13

(配点 5点)

- ① 身体部位がどんな形で、空間のどんな位置に、どのようにあるのか、それらを生理学的な知見を背景に統合して、誰もが正確に把握している。
- ② パーキンソン病患者は、緩慢な動作しかできないように知覚が固定されていて、病状が改善しなければ、その通りの運動しかできない。
- ③ 電極埋め込み手術のように大がかりな刺激を与えると、先天的に動きが固定されているはずの筋骨格系を自由自在に操作できるようになる。
- ④ 感覚が受容する刺激に対して身体はどのように運動するかという身体図式における相互作用が、生物が生きている限り、更新されていく。
- ⑤ 骨格筋を支配する神経線維の電気インパルスは情動に応じて柔軟に変化し、その結果はそのまま身体イメージの概念にフィードバックされる。

問七 傍線部B「噴水の蛇口をいじっているのはあなたのキモチなのだ」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 14

(配点 6点)

- ① 体調を左右する遺伝子のはたらきは、原則的に物理化学的反応に依存するものの、人間の意志が関与する余地もある。
- ② 健康を司る蛋白質がどのように発現するか、多くは化学的信号の支配下にあるものの、人間の思いが関与する余地もある。
- ③ 病気になるかどうかを決定する蛋白質群がどのように発現するかには、人間の意志が十分に関与する余地がある。
- ④ 生死を管理するゲノムのはたらきは、化学的・電氣的信号にあやつられておると同時に人間の心情が関与する余地がある。
- ⑤ 老化を促進するか抑制するかは、DNAのストレス耐性の強弱に左右されるものの、人間の情動が関与する余地もある。

問八 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 15

(配点 6点)

- ① 骨格筋を動かすための神経ネットワークが不調となるパーキンソン病は、神経回路に必要な信号を頻発させるように、視床下核に電気刺激を与えると完治するケースが多い。
- ② アーカンソー大学のG・スミスらが一九八三年におこなった実験結果は、免疫系が条件づけされるといいうマジックに等しく、生理学的な定説では容易に理解しがたい。
- ③ マックマスター大学のR・エイダーらは、ストレスが遺伝子に作用してマウスの免疫系を抑制する事実を一九八一年に明らかにしたが、この機構はヒトにも共通する。
- ④ ヒトもシロイヌナズナも、急にストレスに直面するとストレスを回避して適応するためのストレス蛋白質群を合成するが、これは外的要因によるので遺伝子レベルの話とは全く関係がない。
- ⑤ 一週間でも精神的に強いストレス下に置かれると、ヒトは通常は罹患しな<sup>り</sup>かん感染症にかかるので、何年も継続して精神的に強いストレス下にあるとさまざまな感染症を発症する。

第2問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(配点50点)

いまでは日本にも対話のできる人がとても増えたと思います。特に若い人は対話になれています。けれども、その必要性を感じるきっかけの(ア)タカには性差があるように思います。やはり中高年男性にはまだ対話が要求されずにすむ社会があるように思います。

女性は母親になる経験をするしなやかに関わらず、公的領域に足を踏み入れたとたんに、潜在的な「母」であれという期待を背負わされていきます。あるいは、母になりえない少女としての「女の子」に留め置かれます。その期待を心地よく思う人もいれば、不愉快に思う人もいます。家族関係の内で支配力を行使することを、快樂だと感じている女性もいるはずで。

いっぽう、多くの男性にとっては「母からの解放」の必要性に気づく瞬間とは、\*江藤淳えとうじゆんのように西洋社会にふれた瞬間でしょう。息子を包んでくれるベールはどこにも見当たらず、むき出しの個人が主体として存在させられる厳しさを社会のそこかしこで感じさせられます。そこでは、擬似的な母親になってくれそうな女性は、めったに見つかりません。江藤がいうように、自由がある代わりに孤独をも抱える社会なのです。

男性が母と息子の重苦しい関係に気づかず、あるいは気づかないふりをして生きるとき、日本社会は甘やかでとても心地よく感じられるはずで。「母」なる存在であることを心地よく感じる女性と、その胸に永遠に抱かれたいと感じる息子との、完全なる調和が生み出される小宇宙からなる世界は、むき出しの個人が戦いあう世界よりよほど魅力的だと感じる人は、世界中にいるでしょう。

しかし、母親として、あるいは妻としての私的領域での地位に飽き足らず、公的領域で能力を發揮したい女性や、母なるものからの真の解放を望む男性にとって、日本はA重たい空間となります。私も公的領域で活動し社会に還元するのは当然の義務だと考える女性の一人ですし、「家族関係の内で支配力を行使する」存在にいるつもりはありません。人的資本の観点からいっても高等教育は、公的な場所で還元されるために社会が個人に授けるものであるはずで。ところが日本では、高等教育を受けた女性が知識を家族という私的な場で還元し、自分の子どもに教育を届けるために時間とエネルギーを振り向けても、世間は(イ)イワ感を持ちません。女性が高等教育を受けた貴重な個人である以前に、母なるものに分類されていることから生じる逆説だといえます。《1》

「母と子の分離」なき文明が、近代という重力が到来した後にも存続するためには、「母と子の分離」をいったん進めることは避けられないと私は考えます。そうならない限り、産業化が進んだ社会で重たい空間が持続すれば、女性は母となることを忌避するでしょうし、息子は安心し

て家から出て行くことができず、文明は内向きのまま縮小に向かうからです。

では、この重たい空間から抜け出すためには、何からはじめればよいでしょう。日本を父系性の側面でもとらえたときには、すでに多くの提案がなされています。

- a フェミニズムはこれまで、家父長制に照準して戦いを挑んできました。
- b そのとき、女性 vs 男性の戦いの構図となるのは必然でした。
- c 「父」の権力を解体し、女性を弱者の位置から救い出すなじみのある方策が役に立ちます。
- d 家父長制のもとでは、女性は蔑まれているので自分に自信を持つことを妨げられます。
- e そのとき、女性なら、自分を愛することがその解決策になるでしょうし、男性なら「条件のついた愛」に惑わされないことが第一歩を踏み出すという意味になります。

ありのままの自己を受容する母性原理とはほど遠い、日本の母の論理のもとで精進させられる苦痛を背負うことから解放されるはずですが。

( a )、家父長制が社会の隅々にまで浸透していない社会では、これまでのフェミニズムの延長だけでは解決策がみえません。フェミニズムの盲点はこの事実を見ないことにあると\*クリステヴァも指摘しました。家父長的な社会が内包する父系性と象徴的な次元における近親相姦そうかんの二者関係の禁止という状況は、そもそも「母と子の分離」を経て初めて生じうるものです。「母と子の分離」なき社会には、倒すべき「父」が最初からいません。つまり、「父」は「偽の父」にすぎず、敵を倒そうと乗り込んだところで亡霊のように姿を見せずに漂い続けます。フェミニストは「父」などいらないと主張してきたし、実際に「父」を倒してきたのですが、Xように思います。

多神教社会として日本を考えたとき、事態はさらに深刻です。「母と子の分離」のある社会では家父長制が破壊されれば、「女性嫌悪」の発生は抑制されていくでしょう。フェミニズムが指摘してきたように、「女性嫌悪」は一神教のもとで人格形成がなされた社会にあって発生しやすいからです。日本のような多神教の社会で父系性が退却して母系性に傾いていくなら、母の権力から逃れたいという無意識から「女性恐怖」の発生はむしろ顕著になる可能性すらあります。そのとき、公的領域における女性の地位はすんなり高まることはないでしょう。これが現代日本で

起きていないでしょうか。《2》

こう考えるならば、フェミニズムの盲点を克服する新たな戦いかたが必要だと思えます。社会に「女性恐怖」をこれ以上発生させないために個人が始められる方策は、\*すでに「まえがき」にも記したようにシンプルです。女性なら母親になったとき、息子を愛しすぎずに安心させ、母からの解放をすることです。そして、妻になったのなら、夫の母親代わりにならない関係を保つことです。シングル女性なら職場で母や妻役割をしている人はそれを止め、日本の重苦しい要求から軽やかにスピアウトして生き延びる。男性なら母親を一人の人間と認めた上で、距離感を保つこと、そして妻に自分の隙間を埋める母親役割を期待しないこと、となります。シングル男性なら職場で女性に母親代わりを求めないことになるでしょうか。

この方策を実践するにあたり、女性だから必ず仲間として連帯できるとは限りません。女性と男性という二分割ではなく、「母からの解放」をめざすかどうかの対立軸で、あらたな連帯がゆるやかに組めるでしょう。《3》

<sup>B</sup>なぜこの戦いがどうしても必要だと考えるのかをあらためて述べておきましょう。『母性的なものとの分離』がなされないとき、人は主体と対象の分離がなされない自我を生き続けることとなります。乳児は生まれ落ちたばかりのとき、自己と他者の区別のつかない原初的で自己愛的世界にいとされています。幼いうちに母と自分は異なる人格であることを知り、自己の境界を築く、つまり個人という存在を析出させていくのが近代社会における人間形成の基礎として期待されてきました。もちろん、世界では様々な人間形成のあり方がみられ、西欧近代的自我が浸透しない社会も多数あり、日本はその一つであると思います。

ですが、現代日本は個人に基本的な人権があり、自由に意思決定を積み重ねながら人生を送ることを保障する制度のもと、西欧的自我の確立が前提されています。個人が自律できなければ、あらゆる社会サービスとの不調和は甚大で、制度との隙間に落ち込んで困惑する人々が増えるばかりです。個人を析出させない前近代的な制度へと押し戻そうとする社会の力学は、人と制度のズレがあるという現実から発生しています。しかし、少なくとも日本の現代史を紐解く限りで、前近代の制度が多くの人を幸せにしていたという事実は見えません。私は制度を押しもどす動きには強く反対します。

人権の樹立と差別との決別を成し遂げるには『母性的なものとの分離』は避けられません。ここで論理的必然性を十分に示す余地はありませんが、多神教の社会でありつつ人間に平等性を与えることがいかにむずかしいのかという事例は、インドにおけるカースト制度の残存に明瞭に

見ることができるでしょう。一神教の世界では、異教徒との間に差異はありますが、実現できているか否かはともかく理念として神の前に人は平等に存在します。多神教の社会は理念としても、内部に差異を作り出せる、つまり人間の不平等を正当なものと容認してしまうのです。

属人性を解き放たれた「言葉」を認めることのない社会では、専門知は常に「Y」と並立し続け、日常知よりも上位に立つことがむずかしくなります。「女性」が発した言葉は常に「女性」という人格とともにしか受けとめられず、男性も肩書きと地位とともにしか存在を示せません。どこの「イエ」に属しているか、という観点が重要とされていく社会は、どう変化しても形を変えた身分制から逃れることができないでしょう。

\*太田素子氏は近世農村で子どもに対する情愛と責任意識が濃密になっていく過程で、「家の懸命な管理」に敏感になっていた彼らは、「生きるに値する生」を求める点においても敏感になっていと述べています。現代日本でも、まさに少子化に歩調を合わせるかのように家庭教育が過熱しています。つまり、「よりよい子ども」を育てようと社会が熱心になればなるほど、子どもが障がいを持ち生まれることや、逸脱への不安が喚起されてしまう。それは生まれてきた本人が母親から独立した個人として尊重されていないからです。《4》

息子が母親の「成果」ではないと認識できる社会は、「母と子の分離」がなしとげられたときに初めて成立できます。「イエ」という連綿と継続することを価値と崇めるこのシステム端緒は、ここで破壊できます。「立派な息子」だろうと、「ふがいない息子」だろうと、一人のかけがえない人間として認められ、母と分離した存在として理解されるとき、\*「津久井やまゆり園」の被害者甲Bさんは、固有名詞で審理に付されるでしょうし、学歴エリートやアスリートの母親だからといって特段に賞賛されることもなくなるでしょう。

新型コロナウイルスが世界を席捲する時代、感染した人やその人が所属する組織全体、医療従事者などをまるで「穢れ」ているかのよう扱い差別事例が頻発し、幼児的な世界観が大人になっても持続しているかのような振る舞いが噴出しました。守られるべき人の権利はなおざりにされ、ウイルスに罹患したことが悪であるような批難さえ飛び交います。責任を引き受ける「父」はおらず、「偽の父」が責任を押しつけ合ううちに、多くの人が明日の寝食を求めて奔走する事態にいたってしまいました。感染症は歴史的に繰り返し人間を痛い目に(ウ)アわせており、日本人だろうと平等に襲ってくるのですが、日本人にとって自然の一部でもある感染症を人間と切り離して認識しえませんが、(b)、ウイルスとその宿主である人間を一体のものと見立ててしまうから、感染した人をウイルスごとまとめて排除してしまうような態度が出現します。

「母性的なものとの分離」がなされていない社会にとって、感染症は「おぞましいもの」であっても徹底的に排除できない自然の摂理として、

痛みを抱えつつ共存してしまいます。《5》

「偽の父」しかおらず、最終的に頼る先が「穢れ」が転じて神聖化された母性である日本の反応は、神や天をいただく家父長制社会と大きく異なりました。日本社会は阪神淡路大震災、東日本大震災など手痛い自然の殴り込みを受け続けてきましたが、日本が一つの大きな母なる自然でその一部が自分でありつづける限り、母なる自然への帰依を捨て去ることはむずかしいのです。

(品田知美『「母と息子」の日本論』より)

〔注〕江藤淳……文芸評論家(一九三二～一九九九)。アメリカへの留学経験に基づいて、戦後の日本における西欧模倣の近代化を鋭く批判した。

クリステヴァ……フランスの哲学者であるジュリア・クリステヴァ(一九四一年～)。

すでに「まえがき」にも記したように……本文の記述に等しいことを筆者はまえがきに既に記述している。

太田素子……教育学者(一九四八年～)。

「津久井やまゆり園」の被害者甲Bさん……二〇一六年、神奈川県相模原市にある知的障害者施設「津久井やまゆり園」で入所者ら45

人が殺傷された。多くの犠牲者の氏名が公表されていない現状を踏まえて、匿名の誰かを表す「甲Bさん」と表記している。



問一 傍線部(ア)～(ウ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は(ア)

16

(イ)

17

(ウ)

18

(配点 各2点)

(ア) タカ

- ① 負うべき責任を第三者にテンカしてはならない。
- ② 重要事項をカジヨウガキにして掲示する。
- ③ 八月にカキキュウカを申請するつもりだ。
- ④ 一日三十分以上の散歩をニツカとしている。
- ⑤ 自動車市場はカセン状態の典型例である。

(イ) イワ

- ① あなたの考えにイロンはない。
- ② イニン状に押印する。
- ③ 裁判所がイケンと判断する。
- ④ この問題はナンイ度が高い。
- ⑤ 堂々としてイゲンがある。

(ウ) アわせて

- ① 行方不明者を徹宵してソウサクする。
- ② 先生に悩みをソウダンする。
- ③ 新雑誌のドクシャソウを想定する。
- ④ 険しい冬山でソウナンする。
- ⑤ ヨクソウに湯をためる。

問二 本文中の（ a ）、（ b ）に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。ただし、同じものを二度以上用いてはならない。解答番号は（ a ） 、（ b ）

（配点 各2点）

- ① しかし
- ② したがって
- ③ そのうえ
- ④ ちなみに
- ⑤ つまり

問三 空欄 に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は

（配点 4点）

- ① 「母」はついで倒すことができなかった
- ② 「偽の父」の存在を十分に気にかけてこなかった
- ③ 「父」を倒したことで「偽の父」が生まれてしまった
- ④ 「偽の父」を倒すことができなかった
- ⑤ 「母」は倒せず、「母」と「偽の父」が結合してしまった

問四 空欄 に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は

（配点 4点）

- ① 前近代的な何か
- ② 家柄や家系
- ③ 内部志向性
- ④ 科学的厳密性
- ⑤ 呪術的なもの

問五 次の一文は、本文中の《1》～《5》のどこに入れるのが最も適当か。次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 23

(配点 5点)

母も子も「イエ」という屍しかばねのような身分に縛られ続けているのが現代日本社会です。

- ① 《1》 ② 《2》 ③ 《3》 ④ 《4》 ⑤ 《5》

問六 本文 24 の中の a～e の各文を意味が通るように並べたものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は

(配点 5点)

- ① a—b—c—d—e  
② b—c—a—e—d  
③ c—e—b—d—a  
④ d—c—e—a—b  
⑤ d—a—c—b—e

問七 傍線部A「重たい空間」とあるが、その内容に含まれないものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は

25

(配点 5点)

- ① 日本の女性は、成人として公的領域に参加するやいなや、潜在的な「母」であれという期待を背負わされていく。
- ② 日本の女性は、一定年齢以下の段階では、まだ「母」にはなりえない少女である「女の子」という立場に留め置かれる。
- ③ 日本の男性は、生活様式が西洋化する度合いに応じて、甘やかで心地よい完全なる調和から遠ざけられる。
- ④ 日本の女性は、家族という私的な場所に留まることで「家族関係の内で支配力を行使する」存在にもなりうる。
- ⑤ 日本の女性も男性も、ありのままの自己を受容する母性原理とはほど遠い、日本の母の論理に拘束されている。

問八 傍線部B「なぜこの戦いがどうしても必要だと考えるのか」とあるが、「この戦い」の目的として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は

26

(配点 6点)

- ① 乳児が生まれ落ちたばかりのときに自己と他者の区別のつかない原初的で自己愛的世界にいるに等しい状態を脱して、日本人も西洋人と等質の個人として近代社会でたくましく生活すること。
- ② 主体と対象の分離がなされない自我を生き続けることはどんな社会でも許されないもので、日本人も、母と自分は異なる人格であることを乳幼児の段階で知り、強い自己の境界を築くこと。
- ③ 世界では様々な人間形成のあり方がみられる中、西欧近代的自我が浸透しない劣った社会も多数あり、その一つである日本を、現在の劣等社会から世界でも有数の優等社会へと進化させること。
- ④ 十全に確立した西欧的自我を前提として個人に基本的な人権を与え、男女が平等であることや、自由に意思決定を積み重ねながら人権を送ることを保障する制度を新たに作り上げること。
- ⑤ 西欧近代的自我が浸透していない日本の社会でも、その確立を前提とした制度が設計されて運用されている以上、誰もが平等に扱われるように人権を樹立して、あらゆる差別と決別すること。

問九 傍線部C「母なる自然への帰依を捨て去ることはむずかしい」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 27

(配点 5点)

- ① 日本人は、自然を人間から切り離して対象化する思考にまだなじんでいないから。
- ② 日本人は、自然が豊かな国土に生活していて、自然への親しみが非常に強いから。
- ③ 日本人は、手痛い自然の殴り込みさえ、愛すべき自然の一部だと甘受するから。
- ④ 日本人は、日本は一つの大きな母なる自然であるという神話に囚われたままだから。
- ⑤ 日本人は、人間は母なる自然から析出される存在だという信仰を大切にしているから。

問十 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 28

(配点 6点)

- ① 「母」なる存在であることを心地よく感じる女性と、女性に永遠に守られたいと願う男性が完全に調和する日本のような社会は、西洋社会のようにむき出しの個人が戦いあう世界よりも魅力的であると感じる傾向は、民族や国籍を問わないかもしれない。
- ② 高等教育を受けた女性が、そこで得た知識を家族という私的な場にしか還元せず、自分の子どもにも高等教育を届けるためにあまりにも多くの時間とエネルギーをふり向けている日本の現状に対して、諸外国からの批判は徐々に高まりつつある。
- ③ 日本のように多神教の社会では、父系性が退却して母系性に傾いていけばいくほど、女性を抑圧する悪しき伝統的風習がどんどん弱くなっていった、その喜ばしい結果として公的領域における女性の地位はすんなり高まることが期待される。
- ④ 日本の近世の農村では、子どもに対する情愛と責任意識が濃密になっていく過程で、農業経営に熱心になると生まれた子どもはすべて労働力として尊重しなければならぬという考えが全国的に支配的になっていったという研究が報告されている。
- ⑤ 新型コロナウイルスに感染した人や、そうした人が所属する組織全体、医療従事者などを差別する成人は、自己と他者の区別のつかない原初的で幼児的な世界観を克服できないでいるが、そうした成人が日本の総人口に占める割合は非常に低い。

国語B【解答】

受験校		受験番号		フリガナ	
				氏名	

/ 100
-------

第1問 (配点50点)

	問一				
	1	2	3	4	5
解答	③	④	①	⑤	②
配点	2	2	2	2	2

	問二			問三	
	6	7	8	9	10
解答	④	③	②	③	⑤
配点	2	2	2	4	4

	問四	問五	問六	問七	問八
	11	12	13	14	15
解答	②	③	④	①	②
配点	4	5	5	6	6

第2問 (配点50点)

	問一			問二	
	16	17	18	19	20
解答	⑤	③	④	①	⑤
配点	2	2	2	2	2

	問三	問四	問五	問六	問七
	21	22	23	24	25
解答	②	⑤	④	①	③
配点	4	4	5	5	5

	問八	問九	問十
	26	27	28
解答	⑤	①	①
配点	6	5	6